

平成 30 年 10 月 15 日

公益財団法人庭野平和財団
理事長 庭野 浩士 様

コード番号 : 17-A2-275

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部 築島綾音

平成 29 年度報告書

「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2018 本会議 東京大会」

1. 団体および実施事業の紹介 (400 文字程度で簡潔にご記入ください)

弊団体 グローバル・ネクストリーダーズ学生本部は参加学生・運営学生の双方がグローバルリーダーへと成長する場として、年に1度、世界十数カ国から参加者を募った国際学生フォーラムを運営している学生団体です。

今年度は日本の東京を舞台に、13の国と地域から学生・教授が参加して「ジェンダー」をテーマとした1週間本会議を実施しました。自身の人生から国際社会の課題まで様々な社会的事象のジェンダーの視座で捉え直す中で、グローバルリーダーの数ある素質のうち、異なる文化・社会的背景を持つ他者を尊重し、対話する能力を育むことを目指しました。

本会議は学术交流と文化交流の2点に大きく分けられます。学术交流面では、レディーファーストは女性差別か、広告ほどのように営利の追求と公共性を両立できるか、ジェンダーはライフコースにどのように影響するか、ジェンダーをめぐる社会問題の解決、の4テーマについて、講演やワークショップを通じ討論しました。

2. 社会に伝えたい成果や課題 (600 文字程度で簡潔にご記入ください)

参加者の価値観の差が浮き彫りとなったことが最大の成果としてあげられます。例えば、レディーファーストをめぐる議論では、「女性は助けが必要だ」という想定は差別的であると主張する学生、男女二分論の前提自体を疑問視する学生、「他者に親切にすることの何が問題なのか」と主張する学生などの様々な立場があり、相手の立場を尊重しながらも説得することにどの学生も苦戦していました。アフターマティブアクションの是非、性別役割分業観の是非などの立場の違いは会期中に何度も争われました。

課題としてあげられるのは、参加者の知識量があまりにも異なり、議論が噛み合わない場面があったこと、また他者を尊重する議論の基礎ルールの整備です。その点で「他者理解の精神」を涵養するという目的の達成には至らない点もありましたが、それぞれの参加学生が普段生活する世界と全く異なる背景にいる同年代の学生がいることを知り、そのような他者と対話する難しさを実感するという点では、本会議は大きな成果を残したと考えています。

副次的に得られた成果としては、本会議以後も続く人脈の構築があげられます。例えば、現在も各国でのジェンダーをめぐる課題について SNS を通じ討論しています。参加者はこの事業なくしては出会うことのなかった人たちであり、多国間交流を目指している弊団体ならではのネットワークが形成されたと自負しています。

以上